

学校評価報告書

練馬区立石神井西中学校
校長 有吉 保和

1 自己評価結果

(1) 概要

本校の教育活動について、保護者からは12項目のなか7項目に8割以上の方から指示をいただいている。しかし、相談しやすい雰囲気については低い評価で再確認しながら検討を進める必要がある。

1 実施対象と実施方法

- ① 保護者アンケート＝学校経営計画に関連する12項目について実施。
- ② 生徒アンケート＝学校経営計画に関連する10項目について実施。
- ③ 教職員の自己評価＝学校経営計画の全項目について実施。保護者と同じ項目で実施。

2 評価の方法

- A=そう思う
- B=どちらかといえばそう思う
- C=どちらかといえばそう思わない
- D=そう思わない

3 評価の集計方法

各評価をパーセントで集計し、AとBの合計が80以上であれば概ね達成とし維持改善を進める。80以下の項目については、重要課題として対応をする。

(2) 根拠となる資料

項 目		保護者	生徒	教職員	
1	学校 経 営	A	51	-	20
		B	39	-	80
		C	8	-	0
		D	2	-	0
	通いたい学校・通わせたい学校である。				
	A	20	-	13	
	B	57	-	53	
	C	20	-	33	
	D	2		0	
<p>通わせたい学校としては保護者の評価は、昨年度よりも2ポイント減少しているものの90%で高い。。保護者・地域との連携については77%であり、昨年度よりも1ポイント増加している。</p> <p>学校への信頼度は高いと考えられる。その信頼に応えるべく、課題に対する積極的な取り組みが必要である。PTA役員会、運営委員会などを活用し保護者との連携を深め、学校便りやホームページで広報活動を推進する必要がある。地域町会への学校からの情報発信や地区委員会の活動にも積極的に生徒、教職員を参加させることが必要である。</p>					

2	学級経営について	学校や学級が楽しいと感じている。	A	55	57	40
			B	35	36	53
			C	9	5	7
			D	2	2	0
	不安や疑問があるときは担任や学年に相談しやすい。	A	26	26	13	
		B	46	46	53	
		C	23	22	27	
		D	6	6	7	
<p>学校や学級が楽しいと、保護者の90%、生徒の93%が答えており、おおむねこの点において満足度は十分であると言える。不安や疑問への相談に関する質問には保護者72%、生徒72%、教職員66%と十分だとは言えない。</p> <p>ふれあい月間を活用し、いじめの早期発見解決を図った。不登校生も全校で6人と少なく学校や学級での生活が大きな支障なく行われている。</p> <p>本校では、教育相談を1, 2年は年2回、3年は年3回行っている。「ハートフルコミュニケーション」という教育相談において、第2学年の生徒と全教員が面談を行う取り組みであり、生徒が時間、場所を設定し、教員との悩み相談等を行う。生徒が抱える多様な悩みや不安に対応するためには、学級担任のみならず教科担任もふくめ生徒を観察し、声かけをする必要がある。また、学級や学年による定期的な教育相談の時間を設ける必要がある。</p>						
3	授業について	工夫されて分かりやすい授業である。	A	7	20	7
			B	58	61	73
			C	29	16	20
			D	6	3	0
	通知表で評価されたことは納得している。	A	34	48	7	
		B	46	39	64	
		C	15	8	29	
		D	5	5	0	
<p>工夫された授業について保護者65%、生徒81%と、昨年度よりも保護者においては5ポイント、生徒は16ポイントと増加している。通知表での評価については保護者80%と昨年度と同じ、生徒87%と昨年度より8ポイント増加している。練馬区教育課題研究指定校とし2年目を迎え、教員の授業力向上へ取り組みが生徒への実感として現れてきている。さらに授業改善を工夫するための授業研究や研修をおこない定着をはかる。指導と評価、評定の整合性についての校内研修も大切である。OJTにおいて、評価と指導の一体化を目指しており継続して教員の授業力の向上を目指す。</p>						

4	学校行事について	生徒が活躍する場面があり内容が充実している	A	41	37	47
			B	49	44	40
			C	9	16	13
			D	1	3	0
	学校行事に保護者や地域の方は参加しやすい。 (生徒は学校行事を楽しみにしている)	A	38	57	40	
		B	47	29	60	
		C	13	10	0	
		D	2	4	0	
<p>学校行事の運動会や合唱コンクール等への活動意識は高く保護者は90%、生徒も80%を超えている。保護者や地域の方も毎年楽しみにし、参加して下さる方が多い。学習の発表の場として、教師主体にならないよう、生徒の自主的、実践的な活動を行うことができるよう更なる工夫と改善が必要である。</p>						

5	生活指導について	生徒に問題となる行動が見られる事は少ない。	A	24	68	40
			B	49	26	20
			C	21	5	33
			D	6	2	7
	生徒は「自由と自治」について意識ある行動をしている。	A	18	20	0	
		B	56	55	47	
		C	24	20	47	
		D	3	4	7	
<p>全般的には落ち着いた学校生活で生徒94%という評価である。保護者は73%、教職員は60%と厳しく、生活全般に課題を認識している。「自由と自治」を意識させた指導方法の研修や工夫、教員が集団規律を意識し、統一した指導を行うことが必要である。</p> <p>生活指導目標と各教科等の連携を図り、継続的な充実した生徒指導を目指す。そのために年度当初に生活指導の内容に関する校内研修を行う。「いじめ」「不登校」など早期に発見し対応する。悩みや不安を解消するよう保護者と連携をする等教員の共通認識をもつ機会とし、未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に努める。</p>						

6	部活動について	部活動に目標をもって参加している。	A	4 2	5 4	2 0
			B	3 7	2 6	7 3
			C	1 5	1 0	7
			D	6	9	0
	顧問や外部指導員の活動方法や指導については満足している。	A	2 7	3 5	7	
		B	4 2	3 8	5 3	
		C	2 4	1 7	4 0	
		D	1 2	1 0	0	
<p>部活動への参加では、保護者は79%、生徒は80%と昨年度と比べ微増している。複数の部活動で大きな成果をあげている。教員と比べ、保護者と生徒の評価は低い。顧問体制の再確認が必要で積極的な対応が求められている。生徒、保護者のニーズを考慮しながらの指導の改善や、部活動保護者会との協力体制や情報の共有などを大切にする。</p> <p>また外部コーチの指導方法について、各顧問との共通認識を求めていく。教員が部活に対する教育的な目標をしっかりと認識し、生徒の健全な育成に役立てる必要がある。</p>						

1 学校関係者評価

(1) 総括

①成果

- ・担任の先生に恵まれよきお友達と出会い無事に中学生を送っています。中学時代は思春期でいろいろと悩みじたばたするものです。それを乗り越えて大人になっていくのだと思います。親も心配のあまり手と口を出しそうになってぐっと我慢しています。先生方は一生懸命接してくださっていると思います。より一層学校(先生方)と保護者と地域で子供たちを見守り健全に育つことを希望します。
- ・校舎の周りがいつもていれがしてありまた、校舎内、教室などもきれいに掃除してあり落ち着いた環境の中で子供が学校生活を送っているように感じられます。
- ・担任の先生やクラブの顧問の先生に大変満足しています。久々に昔ながらのよい先生に巡り会えたと思い、子供が成長しているのがわかります。ありがとうございます。
- ・合唱コンクールでは、職員合唱、全員合唱ともにより企画だと思いました。もちろん生徒の合唱はそれぞれすばらしかったです。秋の一日芸術に触れるよい日となりました。ご指導なされた先生方に御礼申し上げます。
- ・校舎がきれいで驚きました。子供たちが元気にあいさつをしてくれうれしく思いました。授業態度もよく先生方も熱心に指導していました。
- ・進路指導(三者面談)において常に前向きに指導していただき自信の無い子が勇気をもらい頑張っています。ありがとうございます。
- ・西中に子供を通わせてとてもよかったです。

① 課題

- ・授業を理解できていない子や成績が低い子に補習授業のような指導があればと思います。
- ・部活動(特に運動部)を支える先生が必要、いてほしいと思います。受け持っている先生への負担の軽減と(1人で運動部を見ている先生は本当に大変です)中学生特に男子にとって運動は健全な発育に必要な不可欠な活動だと思います。

- ・平等に評価していらっしゃると思いますが学習面（定期テスト）の評価を上げてほしいです。提出物を怠る子供も非がありますが頑張って勉強した成果がよく現れる定期テストに重きを置いてほしいです。
- ・体調が悪いという理由がある生徒が欠席が多くても家庭と連携して生徒を見守る体制が見られない。是非学校（担任、保健室、カウンセラー）と家庭が連絡を取り生徒を見守る体制を整えてほしい。早いうちの助言で生徒は立ち直るケースも多いと聞いている。うわべだけの対応(時々自宅に電話をかけて様子を聞くなど)は生徒にとっても自分は必要とされていないなどマイナス思考となり不幸である。温かい対応ができる信頼できる安心できる学校となるようきめ細かい指導を期待します。
- ・登下校の様子を見ていると交通ルールを守られていない姿を目にすることがあります。（青梅街道を走って渡る）小学校のお手本となれるよう学校外での生活指導をもう少ししっかりしていただきたい。また生徒だけでなく家族へもおたより等で指導内容を教えていただければ親子で話し合う機会もできると思います。
- ・避難拠点訓練や対策の希望について地域との連携をどう進めていくか各町会との連携を考えていきたい。

② 善策

- ・教師は授業改善を行い、基礎、基本の学力の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を高める工夫を行い、学力の向上を図る。
- ・生徒に基本的な生活習慣を身につけさせることを徹底し、「自由と自治」についてその精神と実践を意識させながら学校生活を送らせる。
- ・生徒会活動を活性化し、生徒自ら、よりよい学校生活を築いているという達成感を持たせる。
- ・三者面談やハートフルコミュニケーションだけではなく、いつでも教師との相談が行えるように教師からの声かけや生徒観察を充実させる。
- ・小学校との連絡や合同研修を充実させ、小中一貫教育を軸に、学習の連続化を図り、生徒の躰の発見と解決に活用する。
- ・人権尊重教育を推進し、自他共に大切にすることを育て、いじめのない、集団規律のある生徒を育成する。
- ・防災教育においては、保護者や地域の人々を巻き込んだ避難訓練を行い、生徒の防災意識を高める。
- ・保護者や地域に対して、保護者会、学校便り、ホームページはもちろん第二土曜日の授業公開、学校行事でのアンケート調査など情報の発信と収集を行い、学校改善に生かしていく。

2 評価結果の公表など

- 学校便りでの公表
- 学年便りでの公表
- ホームページ掲載

次年度に保護者会で結果の公表と補助説明、協力依頼をする。

3 次年度の学校改善に向けた校長の見解

今年度の学校評価の結果から、次年度に向けて次の点に留意したい。

(1) 学習指導と学習評価に関する保護者への啓発

生徒による評価に比べ、保護者による評価の方が厳しい傾向がある。このことは、①A B評価が80%に満たない項目は生徒4項目、保護者6項目、②生徒による評価の方が高い項目が3項目、保護者は1項目、③この数年、下落傾向にある項目が生徒2項目、保護者3項目、などのことに表れている。特に、授業や学習評価（通知表）に対しては、生徒のほうが明確に高い評価をしている。

これらのことは、日常の学習活動や学習評価活動に直接かかわっている生徒の意識と第三者として評価する保護者の意識のずれであると考えられる。そのため、保護者に対して、日常の学習活動や学習評価活動について、いっそう詳しく情報を提供する機会・方法を工夫することが求

められる。

(2) 教育活動に対する教師の自信の回復

生徒、保護者、教師による共通評価項目は12項目ある。そのうちA評価について、教師による評価が最も低い項目が8項目ある。特に顕著な項目はつぎのとおりである。

項目	保護者	生徒	教師
通いたい学校・通わせたい学校である。	51	—	20
不安や疑問があるときは担任や学年に相談しやすい。	26	26	13
通知表で評価されたことは納得している。	34	48	7
生徒は「自由と自治」について意識ある行動をしている。	18	20	0
部活動に目標をもって参加している。	42	54	20
顧問や外部指導員の活動方法や指導については満足。	27	38	7

根拠のない自信は弊害となるが、教師が自信をもって教育活動に当たることは教育効果を向上させることにつながる。教師が自己申告書の最終申告において、かなり高い自己評価をしていることと対照的である。「うち」に対して甘い反面、「そと」に対して必要以上に卑下する傾向が感じられる。正当な自信をもたせたい。

(3) 少子高齢化社会における学校の役割

学校評価委員会の外部評価では、地域社会における高齢化の進展と地域活動の沈滞化が指摘されている。生徒の意識改善をはじめ、小学校との連携、土曜休業日の意義の見直し、自治会との態勢づくりなどに着手することが喫緊の課題である。